

多様な生き方と働き方を支援 する作業療法のあり方

特集にあたって

“多様性”という壮大なテーマを選んでしまった。考えれば考えるほど、よくわからないし、眠れなくなるし、皆さんにお伝えする自信もまったくない。しかし今のところ、ひとつ行き着いた言葉がある。映画『男はつらいよ 寅次郎物語』で寅さんが言っていた言葉だ。

満男：「人間は何のために生きてんのかな」

寅さん：「難しいこと聞くなあ、お前は……。何と言うかな、ほら、ああ生まれてきてよかったな、って思うことが何べんかあるじゃない。そのために人間生きてんじゃねえのか」

OTは生活のリアルを支援する専門職だ。そんなに毎日いいことばかりは続かない。いきいきと毎日働くななんて無理。“働く”ことはお金のためだけでもない。やりがいのためだけでもない。社会的な役割のためだけでもない。本特集ではさまざまな作業をはらんでいる“働く”ことについて、一人ひとりの意味や価値について考えてみよう。寅さんが教えてくれた、身近な生活でのひとときの気づきこそが「多様な生き方と働き方」へのヒントになりそうだ。

(遠藤真史)

企画担当

遠藤真史 (NPO 那須フロンティア 地域生活支援センターゆずり葉, 作業療法士)

澤 俊二 (金城大学, 作業療法士)

香山明美 (みやぎ心のケアセンター, 作業療法士)